木谷自治協議会広報紙

第　54 号　（隔月発行）
令和 3（2021）年 12 月 1 日
編集：木谷自治協議会事務局

豊潤の里 だより

ゴミ・し尿、木谷へ搬入終わる！

～ 51 年ぶり、平穏な生活がもどる。もうゴミは入れさせない！！

「もう赤崎へ、し尿やゴミが入って来んようになったんよのう」。

地域の初老の人が小さくつぶやいた。半世紀にも及ぶし尿・ゴミ搬入への思いは計り知れない。

安芸津クリーンセンターは、竹原・安芸津住民のし尿を集め処理する施設として、第１期平成元年に供用を開始し、その後平成１０年に施設を増設し、現在に至っている。その稼働年数は実に３３年間にも及ぶ。

しかしながら、木谷赤崎地区のし尿処理施設の歴史は、さらに古い。昭和４５(1970)年に安芸津町はすでに施設を建設しており、実質５１年間木谷赤崎地区にし尿処理施設があることになる。一方で、竹原安芸津最終処分場も平成７年から２６年間、稼働していたことになる。木谷赤崎地区とし尿・ゴミとの歴史はとてつもなく長い。冒頭の初老の人の言葉は重い。

２つの「迷惑施設」がある木谷赤崎地区に暮らす人々の思いはいかばかりだったろうか。
住民の方が当時のことを語って下さった。その中には忍耐強さの中に感謝の気持ち、次の世代への思いを忘れない、寛容でしなやかな木谷赤崎の地域性を感じずにはいられない。

赤崎にし尿処理場が設置されて以来50数年、ようやくこの設備が廃止されます。
思い返せば、最初の頃はひどかったです。常に悪臭に悩まされたものでした。風向きによっては悪臭が家の中まで漂い、食事も喉を通らないし、農作業を行っているときも、早くその場から離れたい気持ちになりました。

その都度安芸津町役場に電話を入れると、担当者が来てくれました。同じようなことが幾度となく繰り返されてきました。今思えば懐かしくもありますが、悪臭の中での生活は嫌でたまりませんでした。
約30年前設備増設工事を実施した後は、あの嫌な臭いは徐々に改善され、近年ではほとんど臭気を感じなくなりました。技術革新はもちろん、行政の取り組み、何といっても従業員の日々の努力を忘れてはならないと思います。

しかしながら、後に建設された最終処分場と合わせ「迷惑施設」に50年余り耐えてきた我々とすれば、今後この跡地を市民のために有効活用してもらいたいと、強く訴えたいのであります。　（ 大田 一夫 ）

木谷自治協議会としても、より多くの賛同・協力を得ながら、木谷赤崎地区に二度とゴミが持ち込まれないよう、全力で栗本ホールディングスに対峙していきたい。そのためには建設予定地の地権者にご理解・ご協力のお願いを継続して行っていきたい。

（コラム） 歴史から知恵を学ぶ　第７話

遠浅海岸(俗称「夕陽が浜海岸」)の歩み

元木谷自治協議会会長　植野洋文（西之谷在住）

① 潮干狩りを楽しむ（昭和10年代）

この時代には、各地より多くの人達が訪れ潮干狩りを楽しんだ。煉瓦工場や機帆船の姿も見えて懐かしい。

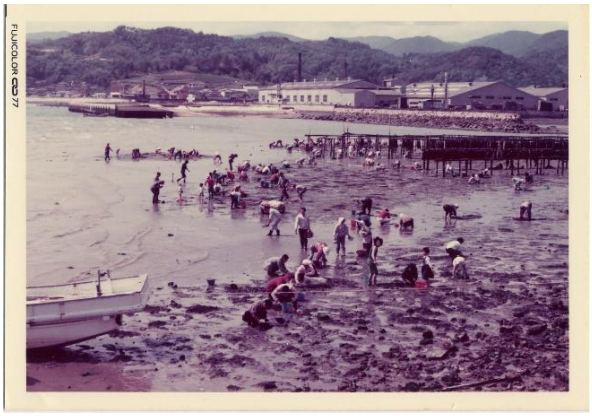
② カキの抑制棚が設置された干潟（昭和30年代）

採苗したカキを遠浅沿岸の抑制棚（よくせいだな）に移します。（干潮時に天日にさらし、環境の変化に強いカキを作るため）約 45 日ぐらい育成した後、沖の筏に吊り下げます。この写真は木工団地が建設される前の抑制棚が設置されている様子です。写真の左上側に赤崎が見えます。

③ 木工団地建設の起工式(昭和42年)

造成面積は、66,663 ㎡で、マツダスタジアムの 5 倍強に匹敵するほどの広さを確保することになりました。

④ 残った干潟で潮干狩り(平成元年頃)



木工団地建設のための埋め立てにより、干潮時の干潟はほとんど姿を消したが、小学校の南側の海岸と西之谷湯盛付近の海岸にわずかばかりの面影を残している。子ども時代に「立ち網漁」や「ガゾウ（モクズガニ）採り」「マテ貝採り」「まだ暗い早朝での漁り」など、枚挙に暇がないほど楽しい体験を与えてくれた「夕陽が浜」に感謝いっぱいである。

住み続けられるまちづくりをめざして③

ますます期待される地域コミュニティ

来年度から東広島市は木谷小学校に「コミュニティスクール」をとりいれる計画があります。この制度は学校と保護者や地域がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、子供たちの豊かな成長を支えるとともに地域社会への貢献を図ろうというものです。

また木谷の西之谷地区には、「西之谷コミュニティ」という名称の地域団体があります。郷地区にはコミュニティという名称は付いていないものの「青少年育成郷地区会議」が、赤崎地区にも同様の団体があり、これらは主として地区の盆踊りや神明まつりなどを通じて住民相互の交流に大きな役割を果たしています。木谷自治協議会は木谷地域をカバーする地域コミュニティで、木谷フェスティバルや地域運動会、防災訓練、敬老事業「福寿の会」などを開催し、地域の人たちの交流に一役買っています。

地域コミュニティは市場経済における金銭的利益の追求ではなく、その地域全体の共同利益（金額では表せない）を実現しようとする非営利組織です。共同利益には地域全体の活性化や一体感の醸成のような市場経済活動では得にくい効果のほか、参加する個人の連帯感、信頼感、達成感、期待感など精神的な価値も含まれると考えられます。

経済社会活動（物やサービスの生産と消費）は、そのほとんどが営利を目的とした合理的な経営（売上を増やし経費を抑えて黒字経営を目指す）、個人の満足度の最大化を目指す消費行動により支えられています。しかし人口が減少すればするほど営利活動の成果は上がりにくくなります。木谷地域でもこれまで個人店の廃業、地域金融機関の撤退、路線バスの運行停止など過疎地特有の現象が進行し、生活の利便性が低下してきました。このハンディキャップを乗り越え、住み続けることのできる地域を維持するために、“共助”を担う地域コミュニティの役割はこれからますます重要になってくると思われます。

今年は規模を縮小した秋祭りに

昨年の秋祭りはコロナ禍により重松神社内で前夜祭と例祭が執り行われました。今年は１０月１６日の前夜祭に続いて、１７日の例祭・御幸行事では神輿行列が御旅所に出向き（左の写真）、そこで神事が行われ巫女舞が奉納されました（右の写真）。いつものような大名行列や子ども神輿といった華やかさはありませんでしたが、近所の人たちは２年ぶりの催しを温かく見守っていました。

「福寿の会」は今年も記念品の贈呈のみに

例年９月に行われる敬老事業「福寿の会」は、新型コロナ感染の収束を期待して１０月３１日に延期しての実施を予定していました。しかし感染状況の改善がみられなかったため、今年も記念品の贈呈のみとなりました。１０月３０日から３２３名の方々に区長さんが届けて回りました。

部会活動紹介

福祉生活部会

10/20 プランターの土を入れ替え

子どもたち一人ひとりが来春に向けてパンジーやビオラなどの花を一生懸命育てます。卒業式にも使われるこれらの花が立派に育つようにと、学校関係者と共にプランターの土を栄養豊富なものに入れ替えました。

＜木谷地区社協 蛟龍＞

木谷自治協議会にご寄付をいただきました

ご厚情ありがとうございました。

令和３年１１月　出島 博文　様（香典返し）

令和３年１１月　出島 紀美江　様（香典返し）

皆様からの温かいご寄付は、元気な木谷をつくるために活用させていただきます。

※ お問合わせは、木谷自治協議会事務局（木谷地域センター内）までお願いいたします。

木谷の人口（住民基本台帳）	世帯数	人口（男女計）	男	女
令和 3 年 10 月末現在	688	1498	733	765
令和 2 年 10 月末との比較	−8	−46	−23	−23